

令和3年度 学校経営計画・学校評価

☑4月5日提出 ☑10月15日提出 ☑3月15日提出

学校番号	49	高知県立清水高等学校	課程	全
------	----	------------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に 応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像 地域から信頼される学校 生徒像 ○学ぶ意欲を持ち、納得するまで考え判断し行動できる生徒 ○高い志や目標を持ち、その実現に向けて挑戦し努力できる生徒 ○豊かな人間性を備え、他者と協働できる生徒	目指すべき姿を実現するための取組等	・基礎学力の定着と学力の向上 ・社会性の育成 ・基本的な生活習慣の確立 ・連携型中高一貫教育の推進 ・地域との連携 ・国際交流活動の推進

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
D3の減少が確実に減少していることから、基礎学力の定着については成果が表れている。D層の固定化を打破し、C層以上に向上させていくことをさらに期待する。家庭学習の定着には課題が見られる。将来の目標をしっかりと見定め、主体的に学習に取り組む生徒の育成を望む。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
高校卒業後の自己像について具体的に考え、積極的に表現する機会を持つ必要がある。地域課題解決学習については、一定の成果が表れていると思われる。小中校が一貫した取組を進めることで、これまで以上に社会性を育成することを期待する。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
ICTを効果的に活用し、生徒の様々な学習に生かしている様子が見られる。学校として、これらの授業衣改善についてしっかりと取り組んでいる様子が見られた。生徒の学力向上を目指し、さらに研究を深めることを期待する。	

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	1.基礎学力の定着 ・基礎力診断テスト2年D3の割合(2回目)10%以下 ・基礎力診断テスト1・2年B3以上の割合30%以上 ・「1時間以上学習をしている」割合(R2年度:36.9%→50%) 2.発展的学力の向上 ・国公立大学合格者5名以上 ・2年生1月の模擬試験での3教科総合の平均偏差値50以上を5名以上 ○学校評価アンケート ・「私は計画的に学習に取り組んでいる」割合(R2年度:47.7%→70%)	・授業改善(主体的・対話的で深い学びの実現) ・学びなおしの機会の確保 ・学習支援員の活用による個別指導の工夫 ・ICTを活用した家庭学習課題の工夫 ・定期的な課題の提供による家庭学習時間の確保 ・遠隔補習授業の活用	C	・基礎力診断テスト2年D3の割合(1回目)は5.9%であった。 ・基礎力診断テスト1・2年B3以上の割合(1枚目)は19.7% ・2年生進研総合学力テスト(7月)平均偏差値42.0 ・全体としてD3層の割合は減少しているが、D層は固定化している。 ・総合学力テストへの取組は不十分である。	B	・基礎力診断テスト2年2回目のD3の割合は9.1%(3名)、1・2年2回目のB3以上の割合は30%(18名)であり、目標を達成した。それに対して1時間以上学習については43%、国公立大学合格者3名、2年生1月模試偏差値50以上2名であった。基礎学力については全体的に改善傾向にあるが、下位層の固定化と上位層の引き上げが課題である。
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・「自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝える」(R2年度:73.8%→80%) ・「将来の夢や目標を持っている」(R2年度:72.0%→85%) ○学校評価アンケート ・「私は高校卒業後の進路を決めている」(R2年度:67.9%→85%)	・地域課題探究学習の推進と地域課題解決の具体的な提言 ・仲間づくり活動等の人間関係づくりの機会の確保 ・文化祭等学校行事の充実 ・自己管理ノートの活用 ・キャリア・パスポートの充実	B	・「自分の考えや気持ちを分かりやすく伝える」(1回目)→67.3% ・「将来の夢や目標を持っている」(1回目)→64.3% ・地域探究学習は年々深化しているが、主体的な学習態度の育成には至っていない。	B	・「自分の気持ちや考えを分かりやすく伝える」66.5%、「夢や目標」68.8%、「進路決定」75.8%であった。具体的な将来目標について、高校1年次から系統的に取り組む必要がある。また、地域課題探究学習の見直しも必要である。

《チーム学校:教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。	○学校評価アンケート ・「私は授業がよくわかる(生徒)」85%(74.5) ・「生徒は授業内容を理解している(教職員)」90%(86.3) 【「4」を20%(4.5)】 ・「学校の指導は生徒の学力を伸ばしている(保護者)」85%(74.7)	・授業改善チームによる指導方法の研究 ・教科会の充実(観点別評価の研究) ・研究授業及び研究協議の充実 ・教員間の相互授業参観の充実 ・学校支援チームの活用(学力向上プランの推進)	C	(オリジナルアンケート) ・「学校の授業は、よく理解できている」(1回目)→70% ・「授業での目標の提示」(1回目)→96% ・「授業の振り返り」(1回目)→93% ・授業改善は進んでいるが、生徒の理解向上の意識につながっていない。 ・観点別評価規準の作成ができていない	B	教員の授業改善については肯定的な評価が多いが、生徒の「授業理解」については74.8%に留まっている。ICT活用等による授業改善の意識の高まりを授業理解の向上につなげる必要がある。
生徒理解 生徒支援	生徒一人一人の生活環境等を理解し、個に応じた生徒支援を組織的に行う体制を構築する。	○学校評価アンケート ・「学校には、信頼できる先生がいる」95%(82.9) ・「学校には、安心して話したり相談したりできる先生がいる」85%(76.6) ・「私は一人の大切な人間である」90%(81.3)	・支援委員会の充実(毎週1回) ・支援情報会の充実(毎月1回) ・支援情報周知会の充実(毎月1回) ・事例整理シートの活用 ・チーム支援ワークシートの活用	B	(オリジナルアンケート) ・「自分が好きである」(1回目)→54% ・「自分が大切である」(1回目)→72% ・自己肯定感の醸成に課題が見られる。	B	「信頼できる先生」86.3%、「安心・相談」81.0%、「大切な人間」88.4%であり、概ね目標を達成した。生徒支援体制の強化と、教職員間の連携についてさらに推進していく必要がある。
学校の振興	中高一貫教育を推進し、地元中学校からの生徒数を確保するとともに、地域と連携し、土佐清水市の課題解決に向けた取り組みを実践する。	○オリジナルアンケート ・「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」50%(33.6) ・地元中学校からの入学生徒数(H28:47→H29:47→H30:33→H31:40→R2:35→R3:27→R4:41)	・中高一貫教育の発展 ・高校生から中学生への情報発信 ・小中高一貫地域学習プログラムの実践と成果発表会の実施 ・地域学校協働本部事業の充実と学校運営委員会での協議内容活性化	B	・「地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動など、実際に行動している」(1回目)→31.3% ・7月に清水中学校3年生全員を対象とした体験入学を実施することができた。	B	「実際の行動」については31%にとどまり、地域探究学習と実際の行動力育成が連結していない。地域探究学習の改善が必要である。地元中学校からの志願者は47名(52.2%)であった。
働き方改革	風通しがよく、働きやすい職場、働きたいと思わせる職場を目指す。教職員がやりがいを持って校務に取り組める体制を構築する。	・長時間勤務者の人数について月80h以上(R2:0名)、月40h以上(R2:2名)→なし ・運動部活動に係る活動方針の遵守	・チームとしての協働と分担 ・定時退勤日の設定 ・部活動複数顧問制(一部) ・部活動時間の制限と部活動休養日設定(週1日以上および年間を通して週2日以上)	B	・教職員の長時間勤務について、時間が平均25時間(8月まで:昨年度は22時間) ・45時間を超える教職員が延4名(8月まで:昨年度は6名) ・業務効率の適正化の意識は浸透している。 ・一部に業務の偏りが見られる。	B	教職員の長時間勤務については、平均27時間42分(1月まで)であり、45時間を超える教職員は延7名であった。業務効率の適正化の意識は浸透している。今後は、さらに協力的な業務体制を構築する必要がある。